

「前向きな気持ち」を後押しする 外来トイレの改修を実施。



ボタンなどは、使いやすいJIS規格の配列に統一。

外来管理診療棟のバリアフリートイレ。ベビーチェアやベビーシート、はね上げ手すり、L型手すりなどが設けられている。床は巻き上げているため清掃しやすい。

京都市の南部にあり、市内最大の人口を擁する伏見区。

その中央に位置している京都医療センターは、1908年の設立以来この地域の医療を支え続けてきました。病床数600床と38の診療科を有し、地域医療支援病院として、他の病院やクリニックとの連携体制を強化したシームレスな医療の実現を目指しています。2020～21年には大規模なトイレの改修を行い、さらに充実した医療環境の整備に努めました。



建物は外来管理診療棟、中央診療棟、病棟など、複数の棟で構成されている。

身体に負担がかかるとの声も多かった 和式便器から洋式便器へとリニューアル。

新型コロナウイルス感染症の流行もあり、感染対策と患者さんのニーズに応えるため、京都医療センターでは外来を中心にトイレ改修を行いました。外来管理診療棟は築40年近く経過しており、トイレの壁や床には汚れが目立ち、換気や衛生設備も古く、感染対策にも限界がありました。患者さんからの投書でもトイレに対する苦情が圧倒的に多く、中でも湿式清掃を行っている床が汚いという声が寄せられていました。また、和式便器が多く、便器洗浄が手動式レバーだったことも大きな問題で、身体や手に負担がかかるという声もありました。

一般のワクチン接種開始前だったこともあり、感染対策の一つとして、短工期での改修が行われました。できるだけ患者さんの不便や負担につながらないように、2フロアずつ計画的かつ段階的に工事を進行。その際に、近くの使用できるトイレがどこにあるかが明確に分かるように院内のトイレ配置図を掲示するなど、患者さんが困らないような工夫を行いました。



内視鏡センター前のトイレ。色分けや突き出しサインにより分かりやすく表示されている。

京都医療センター トイレ改修工事

- トイレ改修年月 / 2020年12月～2021年3月
- 所在地 / 京都府京都市伏見区深草向畑町1-1
- 施主 / 独立行政法人国立病院機構 京都医療センター
- 設計 / 株式会社内藤建築事務所
- 病床数 / 600床



内視鏡センター前のバリアフリートイレ。ベビーチェアやベビーシートなどが設置されている。

トイレ改修とともに清掃方法も変更。 換気も吸気口を増やした局所換気へ。

清潔感のあるトイレ空間に対するニーズは、病院だけではなく駅などの公共施設やショッピング施設など、多くの場所で高まりを見せています。そうした中で、きれいな空間の創造とともに大切なのは、それを維持する清掃の方法。水を流す湿式清掃では、メンテナンスにも限界があります。そこで清掃性の良い乾式清掃にできる設えに改修しました。

以前は臭いの問題もありましたが、消臭機能のある仕上材、清掃しやすい床の巻き上げなどにより、臭気の問題は大きく改善されました。今までタイル目地などにこびりついていた汚れの問題も解消。小便器は壁掛けタイプ、その下には防汚防臭陶板を採用するなど経年劣化しないように工夫しています。

トイレの清掃方法も大きく変わり、以前は布拭きしていたところを、現在は消毒液を含んだ使い捨てのクロスを使用。今後も清掃管理が大切であるという方針のもとに、メンテナンスを行っていくことです。

また、換気を大幅に改善し、今まではトイレ全体で一つの吸気口だったものを、吸気口を増やし、局所換気によって臭いをすぐに回収できるようにしています。

voice 院長先生からの声

患者さんからの評価の声がうれしいです。



院長
小池薫さん

以前から患者さんアンケートでもトイレに関する声が多く、改修が急務でした。また、新型コロナウイルス感染症の拡大もあり、トイレが感染のリスクになってはいけないという強い想いがありました。改修に踏み切れなかったことには経済的な理由もありましたが、コロナ対策の補助金の交付もあり、早速実現につなげました。広く明るく、臭いもせず清掃のしやすいトイレに変化して、患者さんへの安らぎが生まれるとともに、感染対策を充実させることもできました。また、休診しない改修工事のために、そして患者さんにご不便や負担がかからないように、極めて短期での工事計画をお願いしました。工事中の騒音などについては患者さんにご理解・ご協力をいただき、スタッフにはトイレへの案内や誘導を行ってもらいました。大きなトラブルもなく改修が完了し、「とても良くなった」「大変満足のいくものだ」という声もたくさんいただいております。スタッフが安心できる環境づくりにも寄与できたと思いますし、頑張ろうという仕事への意欲が、自然に良い医療提供にもつながっていくと思います。今後は病棟のトイレも改修していきたいと考えています。



外来管理診療棟4Fの男性用トイレには、アール型扉のトイレブースを採用している。



アール型扉の採用によって、限りある空間を最大限に活かすことができる。



4Fのスタッフエリアの女性用トイレには、スタイリングコーナーを新設。非接触で節水にもつながらる自動水栓を採用し、鏡の後ろに照明を設置して明るい空間にしている。



男性用トイレの小便器は、清掃のしやすい壁掛けタイプ。小便器下には、経年劣化を防ぐために防汚防臭陶板が採用された。



遠くからでも分かりやすいように、サインを立体化するなど工夫。バリアフリートイレには、男性用にも女性用にも乳幼児連れに向けた設備が備えられている。

voice 企画課の方からの声

「前向きな気持ち」になれるトイレ改修でした。



企画課 業務班長
宮澤 俊行さん

今までトイレが汚いとずっと言われ続けてきましたから、改修はみんなの悲願でした。そしてトイレがきれいになると、患者さんが「トイレを使おう」という前向きな気持ちになれる。そこはとても大事なことだと思っています。また、トイレだけではなく外来の壁や床も改修することができ、少しずつ変化し続けています。改革を進めることで、スタッフの気持ちも前向きになり、より働きやすい環境になっているのではないのでしょうか。

voice 企画課の方からの声

トイレの手入れ管理がしやすくなりました。



企画課 契約係
銘苅真梨子さん

今までトイレはタイル地の床で、清掃しにくく汚れが残りやすいという声も寄せられていました。改修後は清掃業者の方から、手入れ管理がしやすくなったと聞いています。また、照明が以前は蛍光灯で暗いイメージがあったけれど、人感センサー式LED照明になって明るくなったと聞きます。工事中は騒音に配慮するため、遮音性の高い仮設間仕切りを立ててもらったり、特に音の大きいアンカー工事などは、休診日や平日16時以降に実施しました。

感染対策として、非接触の人感センサーや自動水栓、抗菌・抗ウイルス素材などを採用。

新型コロナウイルス感染症が拡大した時期でもあり、感染対策にも慎重な配慮がなされました。トイレには人感センサーや自動水栓を取り入れるなど、できるだけ非接触のシステムを取り入れ、接触感染のリスクを避けるようにしています。また、手すりなど患者さんが多く触れる場所には抗菌・抗ウイルスの素材を多く取り入れました。抗菌・抗ウイルス素材の使用は、直接的なメリッ

トもありますが、そうした配慮をしていることが患者さんやスタッフの安心感につながる良さもあるとのこと。また、壁材にも抗ウイルスの素材を中心に採用し、清掃しやすい平滑性のあるものにしていきます。

ますます地域に愛される病院へと向かう京都医療センターにとって、今回の「トイレ改修」が大きな一歩になっています。

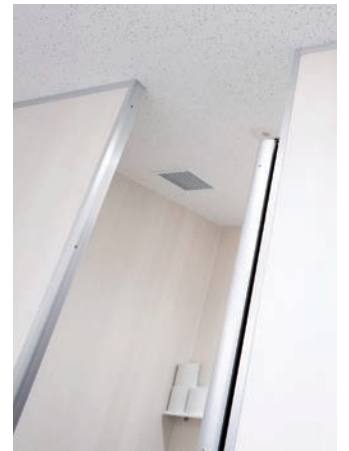
外来と合わせて改修を行った中央診療棟



中央診療棟5Fの女性用トイレ。手洗いの一つには手すりを付けるなど、どんな患者さんでも使いやすいように配慮されている。人感センサー式LED照明による、明るい空間である。



トイレのブースにはL型手すりを採用。左右勝手にも配慮されている。



ブースごとに天井に吸気口を設けるなど、新たな臭い対策も施された。



分かりやすい壁面サインと突き出しサインの採用によって、さらに視認性を高めている。



中央診療棟5Fの男性用トイレ。自動洗浄小便器や自動水栓など、非接触の設備を採用。また冬場でも快適に使えるよう、小型電気温水器も設置されている。